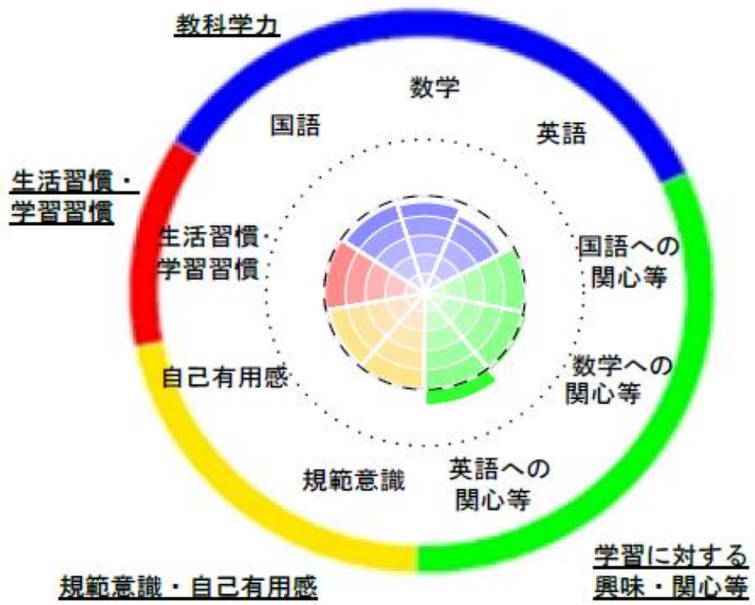
平成31年度（令和元年度）　全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立宍道中学校）

令和元年9月19日

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対　策
国語	○「読むこと」「話すこと・聞くこと」領域の選択式の設問において、正答率が高い。 ●二つの記述式の問題において、無回答率が全国の結果より13～15ポイント高い。 ●封書のあて名の書き方に関する問題において、正答率が低く、無回答率も高い。	・発表することを前提に、自分の考えを書く機会を多く持つ。その際、相手意識を持ちやすいよう、実際に誰かに見てもらう場面を設定する。 ・封書のあて名と同類の、実用的な書く場面を設定し、書き方を学べるようにする。
数学	○「図形」の領域では、平均正答率が多くの設問で県平均を上回っている。 ○「資料の活用」の領域では、確率を求める問題の平均正答率が76%と高い。 ●「関数」の領域では、全体的に平均正答率が低く、変化の様子をグラフで表すことや用語の理解が不十分であることが分かる。 ●記述式の問題において、正答率が低く、無回答率も高い。	・デジタル教科書を使用し、立体図形や点の移動を視覚的に理解しやすくする。 ・表・式・グラフを関連付けて考えることによって、変化の様子がより理解できるような授業展開を工夫する。 ・図形の証明に限らず、説明する必要がある問題場面を多く設定する。
英語	○英語の勉強が好きだと答えている生徒が多い。 ○聞くこと、読むことについては回答率が高く、問題に取り組もうとする姿が見られる。 ●書く問題において無回答率が高い。 ●文章における大切な部分やあらすじを読み取る問題が苦手で、正答率が低い。	・まとまりのある英文から必要な情報を読みとることや聞き取る活動を増やす。 ・様々なテーマで短い英文を書く活動を取り入れ、書くことへの苦手意識を軽減する。 ・読むことと書くことなど、複数の技能を活用する活動を取り入れる。

(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



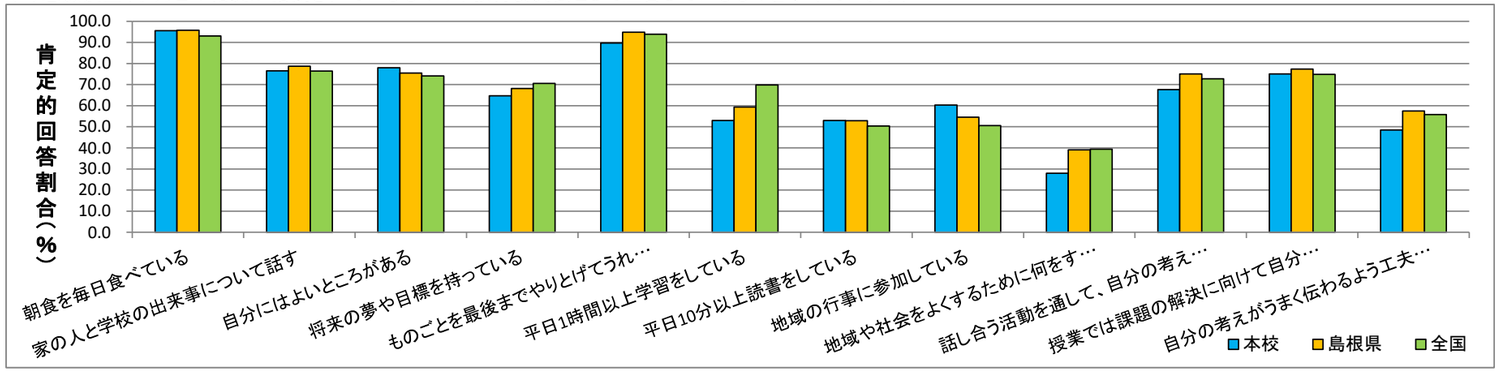
(2)生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○:成果, ●:課題)	対　策
○地域の行事に参加している生徒の割合が多く、地域ボランティアとして多くの生徒が活動している様子が伺われる。 ○自分にはよいところがあると感じている生徒の割合が、全国・島根県の回答を上回っている。 ●家庭学習の時間が短く、約半数の生徒が、平日1時間未満しか家庭学習をしていない。 ●将来の夢や目標を持っている生徒の肯定的回答割合が全国・島根県よりも低い。	・今後も地域ボランティアへの積極的な参加を促し、その活動を通して生徒の地域への帰属感や貢献感を高めていく。 ・家庭学習の習慣化を図るために、各学級の教科担当者が連携をとりながら、継続的に適量の課題を与えていくようにする。 ・職場体験を通して、働くことの意義や自分の将来について考え、学ぶ目標をもたせる。

(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・SNSに関しては、外部講師の講演や道徳、学活などで生徒に適正な使用を促し、各家庭にも使用の制限やきまりをつくることの大切さを知らせるなど、PTAと連携を図っていく。
・お互いの良さを認め合い、協力して物事にあたる集団作りに取り組み、人権について考える機会をつくることで、生徒の人権意識を高めていく。

(3)意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



【参考】

○平均正答率　（%）

	本　校	松江市	島根県	全国
国語	71	73	73	72.8
数学	56	60	57	59.8
英語	50	54	53	56.0

受検者数　67 人

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受験者数をもって表示しています。